

令和元年度 学校自己評価表【最終評価】

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をとおして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
-------------------	---

今年度の重点目標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成 2 夢や希望をかなえられる学校づくり 3 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり 4 ものづくり教育の推進 5 業務改善の取組み
----------	---

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果(中間)		評価結果(最終)			
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 心身ともに すこやかな 生徒の育成	基本的生活習慣の 確立・マナーの 徹底	・平成30年度は防げる遅刻が40回と多かったが、5月23日現在、3回と例年並みのスタートとなっている。 ・多くの生徒が、端整な服装、マナー・エチケットを意識して過ごしているが、校外においては不十分なところがある。	・生徒会を中心にした自治活動が盛んで、防げる遅刻回数目標値が24回を下回っている。 ・平素から身だしなみを意識して過ごし、再点検がゼロとなっている。	・生徒会執行部が中心となり、遅刻防止を啓発する。 ・時間を守ることの大切さを伝えるとともに、遅刻届を活用する。 ・服装点検を月1回実施し、全教職員が小さな違反を見逃さない姿勢を持つとともに、日頃から共通理解のもとで指導する。	○第1回生徒総会で遅刻の上限目標を設定(年24回)し、生徒総会のたびに状況報告、遅刻防止を呼び掛けた。防げる遅刻は8回(9/19現在)、前年は17回(同時期)で、遅刻者数が減少している。 △1・服装再点検者は132人で、前年とほぼ変わらない。頭髪、服装への意識が低い生徒がいる。 △2・気持ちの良い挨拶ができていない生徒がいる。 △3・生活習慣、スマホ使用のマナーなど改善が必要な生徒がいる。	B	1・毎月の服装点検等をおとして指導していく。 2・毎日の挨拶運動やPTA挨拶11運動などをおして啓発していく。 3・生徒会執行部と連携して、ルールやマナーを意識した生活ができるよう改善方策を考える。	○1月30日現在の防げる遅刻回数は16回(昨年度37回)で、大幅な減となった。また、総遅刻数も64回(昨年度83回)で減少している。防げる遅刻に対して重点的に取り組んだ成果と考えられる。 ○服装再点検者(9回実施)は204名で昨年度(230名)から減少した。頭髪や制服の着崩しによる違反は少なく、身だしなみに対する意識は高まっている。再検査に対する姿勢も期限を守りよい状況である。	B	・生徒会執行部と連携し、遅刻に対する啓発を進める。 ・毎月の服装点検だけでなく、日常の学校生活において全教職員が「気づいたら、すぐに指導」を実践する。
	望ましい人間関係の 構築	・人権教育全体計画をもとに特別活動における人権教育の充実が系統的にすすめられており、教職員研修も充実している。人権課題を抱えた生徒に寄り添いながら学習活動を展開したり、自らの「関係」として捉え、主体的に向き合っていくまでには至っていない。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関と連携をとり、課題を抱える生徒に寄り添いながら教育相談活動を行っている。認知の変容、自己理解の深化を試みてはいるが、自らの力で環境調整をするまでには至っていない。	・いじめや差別のない、望ましい人間関係が構築できている。 ・人権問題を自らの問題として捉え、差別解消・社会変革に向けて他者と積極的に関わる主体が育成されている。 ・生徒が抱える課題について、特別支援教育の観点に立って全教職員が共通理解し、課題解決のための支援や対策を講じている。 ・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを有効に活用できている。	・人権教育LHRを中心に事前関係が構築できている。 ・教職員学習会をもとに解放研部員・人権教育推進委員のLHRへの参画促進と事後研修及び教職員研修の充実を図る。 ・公開人権教育LHRに向け、PTA人権教育推進委員会の活性化を図る。 ・各分掌・学年職員との連携の場や職員研修をとおして、各課題について対応策を協議し、支援活動を行う。 ・生徒・保護者・教職員の自己理解・相互理解のために、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーや関係機関と連携し、教育相談活動を行う。	○学校生活に関するアンケートで、「学校に通うのが楽しい」と肯定的な評価をしている生徒は76%で、多くの生徒が充実した学校生活を送っている。 ○気になる生徒の状況を科で共有し指導にあてられた。 ○いじめ案件に対するアンテナが高くなった。 △4・ストレスや葛藤を抱えながら学校生活を送っている生徒も少なからずある。 △5・新入生が親しくなっていく中で、困り感を持つ生徒の変化に気づくのが遅れた場面があった。 ○職員現地研修に解放研部員も参加したり、人権教育LHRの前に学年団で事前研修会を実施した。 ○解放研は、定例的に部会を開催し、部員は校内外の行事に積極的に参加している。 △6・PTA人権研修の1回目はPTA総会で実施したが、PTA人権教育推進委員会については、9月によりやく1回目を開催することができた。	C	4・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携して教育相談活動に取り組む。 5・いじめアンケートや生活点検アンケートの結果を活用し、日ごろから生徒の変化を見逃さないように声掛けを積極的に行い、いじめの予防・早期発見に努める。 6・10月の公開人権教育LHRに向けて、職員研修の充実・解放研部員の参画・PTA人権教育推進委員の参観等の取組を進めていく。	△1・対人関係事案は、いじめ防止対策委員会を開き、迅速に対応した。多くが早期発見、早期解決できたが、いじめアンケートに表出した事案は年度初めだけだった。 ○3年生3学期の意識調査結果は、すべての項目において入学時より向上している。また、解放研部員は他校生徒と交流を深めたり、倉吉市解放文化祭で思いを地域に発信できた。 ○職員会議で特別支援教育の観点に立った研修を7月より毎月行った。 ○SC、SSWと連携し支援を必要とする生徒に対して必要な支援を適切に講じた。	B	1・定期考査後のいじめアンケートを継続する。また、アンケートによるいじめ発見と抑止のために、HR等はいじめアンケートの内容を周知し、いじめ事例を把握させる。
	部活動と 生徒会活動	・実質的に前年度踏襲のかつ教職員主導の生徒会活動となっている。 ・部活動加入率は95%(2019年5月)である。	・生徒自らが主体的に生徒会行事や部活動に関わっている。	・生徒相互および教職員との丁寧な議論の積み重ねを通して執行部の育成をすすめる。生徒自治の保障(決定事項の尊重)を通して生徒の生徒会観の構築を図る。 ・「運動部/文化部活動に関わる方針」を踏まえ効率的な活動を進める。器具・部室管理を通して自主・自律の精神を涵養する。 ・部活動に加入していない生徒については、担任・保護者と連携を取りながら、生徒会執行部や校外サークル活動、ボランティア活動等への参加を勧める。	○生徒会執行部21人、学校祭実行委員会45人と人的には参加状況が向上している。生徒総会等でも活発な議論がなされている。 ○部活動を引退するまで積極的に活動していた。また、引退してからも、練習に参加する生徒もある。 △7・部活動加入率は、1年生93.2%、2年生91.9%であり、4月当初に比較して微減傾向にある。 △8・部室周りの清掃や終了時間が徹底できていない。	B	7・未加入者の生活を把握するとともに、年度途中で退部した生徒へ再入部に向けた丁寧な働きかけを継続していく。 8・定期考査後に部室点検を行うとともに、生徒部が中心になって部活動終了時間の徹底を図る。	○倉祭祭の評価アンケート(全体的な評価:肯定的評価86%・実行委員やりたい32%)はおおむね肯定的であった。 ○部活動未加入者6人が執行部に加入し、執行部員は18人となり(うち10名が1年生)、生徒主体の雰囲気も育っている。 ○定期考査中の部室点検および学校祭前の一斉清掃等の取り組みで、整理整頓の意識付けが進んだ。 ○部活動の加入率は、1月末時点で1年生93%、2年生91%である。 △2・練習終了後も遅くまで部室に残っている生徒がいる。	B	2・顧問は部活動の練習時間を部員に周知し、練習後は速やかに下校するよう指導する。また、生徒主体(生徒会)による下校を促す啓発をする。

令和元年度 学校自己評価表【最終評価】

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
-------------------	---

今年度の重点目標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成 2 夢や希望をかなえられる学校づくり 3 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり 4 ものづくり教育の推進 5 業務改善の取組み
----------	---

評価項目	評価の具体項目	年度当初		評価結果(中間)		評価結果(最終)				
		現状	目標(年度末の目指す姿)	経過・達成状況	評価	経過・達成状況	評価			
2 夢や希望を かなえられる 学校づくり	キャリア教育・ ふるさと教育の充実 M:機械科 E:電気科 C:ビジネス科 D:生活デザイン科	・1年生が地元企業を3か所見学し、企業の取り組みを理解するとともに学習や実習の内容が現場とつながっていることを認識した。(M) ・鳥取県電業協会中部支部との共同作業で、倉吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地域に貢献した。(E) ・インターンシップ(12月)・デュアルシステム(7月、12月)を実施した。(C) ・地域や社会における生活に関係のある課題の解決を図ることをおとして、地域の理解に努めた。(D) ・2学期から3学期にかけて先輩に学ぶを実施している。	・キャリア教育やふるさと教育等をおとして、地元企業に対する理解が深まり、仮に県外に進学したとしても、将来的に多くの生徒が県内に戻り就職や起業をしたいと考えている。	・進路学習をとおして進路意識を啓発するとともに、地元企業の見学や講演等により地元意識を高める。(M・E) ・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実させるとともに、インターンシップに関する事項を、関係する分掌、学科、学年と連携し、協力して推進にあたる。(C) ・生活デザイン科に関わる交流や講習等をおとして、地元に対する意識を高める。(D)	C	・今後、計画されている交流や講習等を計画どおり実施するとともに、授業と実習の連携を図る中で、生徒が振り返りを活かし、自身の課題を解決できるようにする。	○県職協からの旋盤指導により、生徒の旋盤技能が向上した。年度内に企業見学等を実施する。(M) ○インターンシップ前の安全教育及び地元企業での長期インターンシップを実施した。(E) ○学校設定科目に意欲的に取り組み、1年生インターンシップ、2年生ビジネス実習をおとして、勤労観や就労意識が身につけている。(C) ○交流・講習は計画どおり実施し、地元企業の見学をおとして生徒の視野が広がった。	B	・業種の幅を広げるために受入れ事業所の種類を増やす。(D)	
	進路実現	・昨年度年度内の就職内定率は99%であった。 ・進学60名、四年制大学5名(国公立2名)、短大12名、専門学校41名、ポリテク2名であった。	・年度内に就職内定100%となっている。 ・希望進学先に合格が決まっている。	・3年担任団と密接な連携をはかる。 ・適切な進路指導と情報を提供する。 ・進学者のための課外授業等を行う。	C	○3年生全員が進路を決め、それぞれの目標に向けて努力している。進路部は、3年担任団と連携して進路指導・面接指導等を行っている。 △9・第1希望合格がかなわず、次の進路にむけて進行中の生徒がいる。	○9・生徒・保護者に対して、最新の情報をもとに、最も希望に沿った進路へあきらめることなく向かうよう指導する。	○就職87名、進学60名(四大15人、短大12名、専門学校33名)の進路が決まっている。就職内定率は100%である。 ○進学希望の残り1名も方向性が決まっている。	A	
	資格・検定取得の促進	・各種検定取得に取り組んだ。	・資格、検定の上位級取得を目標に積極的に取り組んでいる。	・資格や検定の意義や取得に取り組む重要性を生徒に理解させる。 ・長期休業中や放課後に資格取得、検定合格のための課外授業を実施する。	B	△10・各科で夏季休業中に検定に向けた課外補習を実施するなど、資格や検定の取得に取り組んでいるが、一部の生徒が検定試験で苦戦している。 [M]△11・検定により合格率に差がみられた(技能検定旋盤100%、基礎製図検定10%) [E]○第二種電気工事士試験(上期)の合格率は83.9%であった。	○10・放課後課外等を実施し、十分な準備をさせたうえで再受験に向かわせる。 11・1年生の基礎製図検定不合格者には再受験を勧め、複数の教員で個別に丁寧な指導を行う。	○技能検定(旋盤)に1年生から13名の受験者があった。(M) △3・各種検定において1年生の合格率が例年に比べて低い。(M) ○2年生が中心に受験した第二種電気工事士試験の合格率は90.3%であった。(E) ○計画的に課外授業を実施し、ビジネス科全体で資格取得に積極的に取り組んでいる。(C)	B	○3・生徒によって資格取得に向けた温度差が大きく、無資格の生徒が出ないようにするために、次年度再受験させる。(M)
3 地域・地元へ 愛され、 信頼される 学校づくり	教育活動の 情報発信	・ビジネス科生徒が作成した学校カレンダーを、学校外の企業や中学校等に配り、情報発信に努めている。 ・ホームページの記事の掲載について随時呼び掛けているが、頻りに記事を更新している部活動があれば、全然できていない部活動もある。	・学校行事、部活動の大会成績などの記事がホームページに随時掲載されており、本校の活動の様子が地域に知れ渡っている。	・学期ごとに、記事の更新数をチェックし、1回も記事を更新していない部活動には、記事更新を依頼する。 ・学校行事については、総務部が各担当にホームページへの記事の掲載を積極的に依頼する。	B	12・来年度も学校カレンダーを作成するが、ニーズに合わせて増刷する。	○研修旅行の様子をフェイスブックを利用し効果的に発信できた。(2年) ○課題研究「くらそうビジネスセミナー」で学校カレンダーが作成できた。(C) ○5月のホームページ1日平均閲覧者数は200台であったのが、2月には300台までアップした。	B	・保存された画像を利用するだけでなく、学校カレンダー利用を意識した撮影に取り組む。(C)	
	地域との交流促進 M:機械科 E:電気科 C:ビジネス科 D:生活デザイン科	・中の子ども科学まつりや地元公民館との共同企画で小学生をはじめ幅広い年齢の方と交流ができた。(M) ・中学生工作教室を長期休業中に2回行うことができた。(E) ・「チャレンジショップくらそうや」「くらそうサロン」「くらそうビジネスセミナー」がそれぞれのやり方で交流した。(C) ・小学生や福祉施設の方々との交流を行っている。生徒が主体的に交流を行っている。(D)	・他者との関わりの中で場にふさわしいコミュニケーションができる。HPなどを活用し本校の取組が理解されている。(M) ・中学生工作教室の参加人数が増え、年間2回行われている。(E) ・「チャレンジショップくらそうや」「くらそうサロン」「くらそうビジネスセミナー」をおとして、積極的に地域に外向き交流機会を増やす。(C) ・社会人講師や施設の方々との意見を伺いながら、交流の計画を行う。また、学習した知識や技術をいかし、生徒が主体的に交流できるよう指導する(D)	[3年]○課題研究で地域に出かける機会が多く、一定の評価を得ている。 [M]○中の子ども科学まつり、上北条公民館などと交流の場を設けた。 [E]△13・夏休み中の中学生工作教室の参加者がなかった。 [C]○くらそうやなど計画どおり実施している。 [D]○社会人講師や福祉施設と協力して計画どおり交流している。	B	13・来年度に向けて事業の見直しを行うとともに、今年度冬休み中の中学生工作教室は、案内方法などを見直し、参加者を増やす。	○上北条公民館からの依頼に応える活動や中の子ども科学まつりをおとして地域との接点を持つことができた。(M) ○冬期中学生工作教室を実施した。また、「電気をおとして福祉を考える」活動でお礼の言葉を多くいただき、地域に根ざした活動となった。(E) ○くらそうサロンは、町内放送の効果もあり高齢者の参加が多くあった。また、くらそうやは「食のみやこ」「上北条まつり」に出店し地域交流ができた。(C) ○社会人講師による指導や福祉施設との交流が生徒の主体的な活動につながった。(D)	A	・ものづくり学科としての要望に応えられる交流を考える。(M) ・くらそうやをパープルタウンに出店したり、倉吉北高校調理科との連携も検討する。(C)	
	PTAとの連携	・役員会や各種委員会が出された意見については臨機応変に対応ができています。 ・委員さんは熱心に活動していただいているが、会員さんのPTA行事への参加率は低い。	・PTA総会をはじめ、PTA主催の各種行事に多くの会員が参加しており、活発に活動がなされている。	・保護者は担任や部活動顧問等と話ができることを希望している場合が多く、教職員と話し合える機会を行事に設け、保護者の参加を促す。	A	[3年]○進路部を中心に、進学や就職の情報を適宜連絡している。 △14・PTA総会、PTAスポーツ親睦会での2年生の保護者の参加が少なかった。	14・PTA総会は、保護者が参加しなくなる企画を考える。また、スポーツ親睦会は、教職員の参加が少ないので、まずは教職員の参加を促し、担任や部顧問に相談ができる環境を整え、保護者の参加を呼びかける。	○役員会・各種委員会の活動は活発であった。 △4・スポーツ親睦会などで、教職員の参加が少ない。	A	4・教職員の参加を促す企画や内容を検討する。

令和元年度 学校自己評価表【最終評価】

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
-------------------	---

今年度の重点目標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成 2 夢や希望をかなえられる学校づくり 3 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり 4 ものづくり教育の推進 5 業務改善の取組み
----------	---

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果(中間)			評価結果(最終)		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 専門教育の 推進	地域産業界との 連携 M:機械科 E:電気科	・地元企業見学を生徒、科教員が実施し、学習内容が現場でどのように活かされているか理解できた。自動車整備振興会の協力を得て自動車整備体験の場を設けることができた。鳥取県職業能力開発協会から技能士を派遣していただき、技能指導を実施した。(M) ・鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会議を2回開催し、各事業を連携して取り組んでいる。また、同協会に高校生ものづくりコンテストの指導を受け、中国大会出場権を獲得した。(E)	・学ぶことの意義を一人一人が感じ、意欲的に学習に取り組み、体験活動をおとして自分自身の進路を考えている。(M) ・鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会議をおとして、各事業を連携して取り組んでいる。 ・高校生ものづくりコンテストにおいて上位に入賞している。(E)	・産業界との関りを継続し、産業界の求める教育内容、人材の育成に努める。(M) ・電気工学科の活動において、複数の科職員が作品の指導・評価を行う。 ・鳥取県電業協会中部支部の指導を受け、技術の向上を図る。(E)	【2年】○研修旅行での企業研修に向け準備中である。 【M】○自動車整備体験に12名が参加した。企業見学を3学期に計画している。 【E】○鳥取県電業協会と意見交換ができ、ものづくりコンテスト中国大会に向けて指導を受けることができた。	B	・研修旅行はその意義を理解させ、「学び」のある研修にする。 ・地元企業と連携を図り、企業見学やものづくりコンテスト県大会に向けて指導にあたる。	○2年生研修旅行では、県内では経験できない大企業における研修ができ、進路を考えるきっかけとなった。(2年) ○企業の協力により、講演会や企業見学、技能指導が実施できた。(M) ○鳥取県電業協会中部支部の協力により、ものづくりコンテスト中国大会に出場したり、倉吉未来中心にイルミネーションを設置することができた。(E)	B	・交流をおとして企業の技術を学んだり、地域のニーズに応えるよう努める。(M)
	学科の枠を超えた 連携 M:機械科 E:電気科 C:ビジネス科 D:生活デザイン科	・校内施設の修理、改善や他科からの製作依頼(ペーパーサート台)など要望に応えることができた。(M) ・課題研究「くらそうや」の期間中に「おもちゃの病院」を実施している。また、電線(銅線)を使った商品を提供している。(E) ・「チャレンジショップくらそうや」をおとして、学科間連携が進んだ。電気科から「おもちゃの病院」、生活デザイン科からは作品提供があった。(C) ・生活デザイン科は、くらそうやへ商品を製作し提供しているが、顧客のニーズに合った商品が作れていない実態がある。(D)	・他科からの要望に応えることで認められた喜びやものづくりの楽しさを感じる事ができる。(M) ・くらそうやに電気科として「おもちゃの病院」及び「商品提供」ができていた。(E) ・課題研究「くらそうや」をおとして学科間連携が進んでいる。(C) ・商品を開発し、くらそうやで生活デザイン科の生徒が販売している。(D)	・他科のみならず、校内外の様々な要望に応える。(M) ・課題研究「テクニカルボランティア」をおとして「おもちゃの病院」を行う。電気工学科と連携して商品提供を行う。(E) ・「くらそうや」において他学科の生徒の販売実習を検討する。(C) ・ビジネス科と連携し、アンケートを実施するなど顧客のニーズにあった商品を製作する(D)	【M】○上北条公民館など校外からの要望に応えるよう努めている。新商品の開発を検討している。 【C】○E科、D科の協力を受ける予定である。 【D】○商品を開発し、くらそうやに提供できた。	B	・引き続き商品開発や、くらそうやを軸にした学科の枠を超えた連携がはかれるように努める。	○地域(上北条公民館)、他学科の要望に応えることができた。(M) ○くらそうやへの商品提供や「おもちゃの病院」は、地域から好評を得た。(E) ○開発した新商品をくらそうやで直接販売することができた。(C・D)	B	・他学科の要望に応えるため、新商品の開発を検討している。(M)
5 業務改善の 取組	長時間勤務者の 解消	・教員等の平成29年度比月当たり時間外業務は1%削減(42.0時間→41.6時間)であった。 ・月時間外業務100時間以上は10人で27回であった。産業医との面接指導を超過者全員に対して実施した。 ・時間外業務の約70%を部活動指導・大会引率が占めている。	・月当たりの時間外業務が、平成29年度比で15%削減できている。 ・部活動休養日が、週当たり1日実施されている。	・週休日振替、年休、夏季休暇等の取得を推奨する。 ・業務に偏りが生じないように、分散化を図る。 ・毎月の部活動計画の提出を徹底し、点検・指導する。	○リフレック週、帰らぬDAYを定期的に点検している。 【教務】○4月～5月は時間割作成等、教務部の時間外勤務を削減することは難しいが、それ以降は計画的に業務を遂行することで削減できている。	B	・繁忙期とそうでない時期をみとおして、今後も計画的に業務を遂行する。	○特定の教職員の負担が増えないように業務の分担ができた。また、今年度から放課後(勤務時間外)補習の勤務の割振により教職員の負担軽減ができた。(M) ○4月から1月の平成29年度比月当たり時間外業務は9%削減(43.5時間→39.0時間)であった。 ○月時間外業務100時間以上は7人であった。また、延べ数は13回で昨年度に比べ半減した。	B	・特定の教職員の負担とならないよう指導計画を立てる。(M)

A [100%] B [80%程度] C [60%程度] D [40%程度] E [30%以下]